

呼倫貝爾 (ホロンバイル) 草原のノガン

烏力吉

内蒙古達賚湖國家級自然保護區

訳 福井和二

ノガン (*Otis tarda*) は中国に二つの亜種があり、標準亜種 (*O.t. tarda*) は新疆省西部の天山、および中部の吐魯番地域に分布し、東北亜種 (*O.t. dybowskii*) は新疆省塔城盆地北部からはじまり、東は黒龍江省の明水に至る比較的広範に分布しているが、その繁殖地は島状に孤立して点在する。越冬地は主に江蘇省、安徽省北部、江西省鄱陽湖地区と貴州省の草原地帯である。

個体数と分布

呼倫貝爾草原のノガンの分布状況については、まだ報告されていないが、現在までにある資料、図譜等は、新巴爾虎左旗における繁殖に限られていた。筆者は、多くの地区を訪ね歩き、大興安嶺以西の呼倫貝爾草原にノガンが平均的に分布し、多くの繁殖鳥を確認した。生息地の多くが季節的あるいは永久的湖沼*1の沿岸に広がる草原であり、これらの中には人里も少なく、人の活動も比較的軽微である。毎年、冬季(11月から翌年4月)を除く期間に、すべての地区でノガンを見ることができる。

1. 達賚湖地区

主に新巴爾虎右旗域内を指し、貝爾湖北岸、烏爾遜河兩岸、烏蘭諾爾周辺地区、達賚湖南岸および、その西側の克魯倫河兩岸に至る、蒙露二国の国境に接する広大な地域である。通常3~6羽の小群のノガンを観察することができるが、1998年、克魯倫河南岸で50羽ほどの群れを見たという情報があり、これが最近の観察では最大の大群といえる。

この地域でのノガンの個体数は約150~200羽で、その密度は約0.007羽/km²ほどである。

2. 輝河、伊敏河流域

1998年2月、筆者が鄂温克族自治旗輝河珍禽湿地草原自然保護区を訪ね、当地の遊牧民により、毎年4月初旬から10月末頃まで小群のノガンを常時見ることができるとの情報を得た。1998年5月春季鳥類調査隊は輝河西岸で4羽のノガンが採食しているのを発見し、続いて輝河西岸の新巴爾虎左旗莫達木吉南側でノガンの営巣跡を2ヶ所発見した。ともに丘の斜面に生えた草の中に、わずかな枯れ草の茎や葉を巣材にした、浅い盤状の簡単な巣であった。当地の住民たちはこのような丘の斜面でノガンの巣や幼鳥をよく見かけるとのことであった。

輝河流域で繁殖しているノガンの個体群は30~50羽とみられる。

3. 額爾古納河、莫爾格勒河流域

1998年8月末、莫爾格勒河沿岸の巴彥哈達蘇木西南で3羽のノガンを発見、さらに陳巴爾虎旗の呼諾爾東南、公道301号北約3kmの所で7羽のノガンが採食しているのを観察した。また、陳巴爾虎旗草原自然保護区の責任者は、陳巴爾虎旗の草原全域内に分布し、主に水のあるところに多く生息しており、莫爾格勒河流域の北側、ロシア国境の額爾古納河沿岸に至る広大な草原と、東は、大興安嶺森林の林縁に至る地域では、どこにでも少しづつはノガンが生息していると述べている。現在のところこの地域のノガンの個体数および分布密度は確定することはできていない。

生存の脅威

呼倫貝爾草原では、人類がノガンの生存に対して直接脅威をもたらしている。その主なものは、

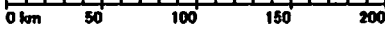
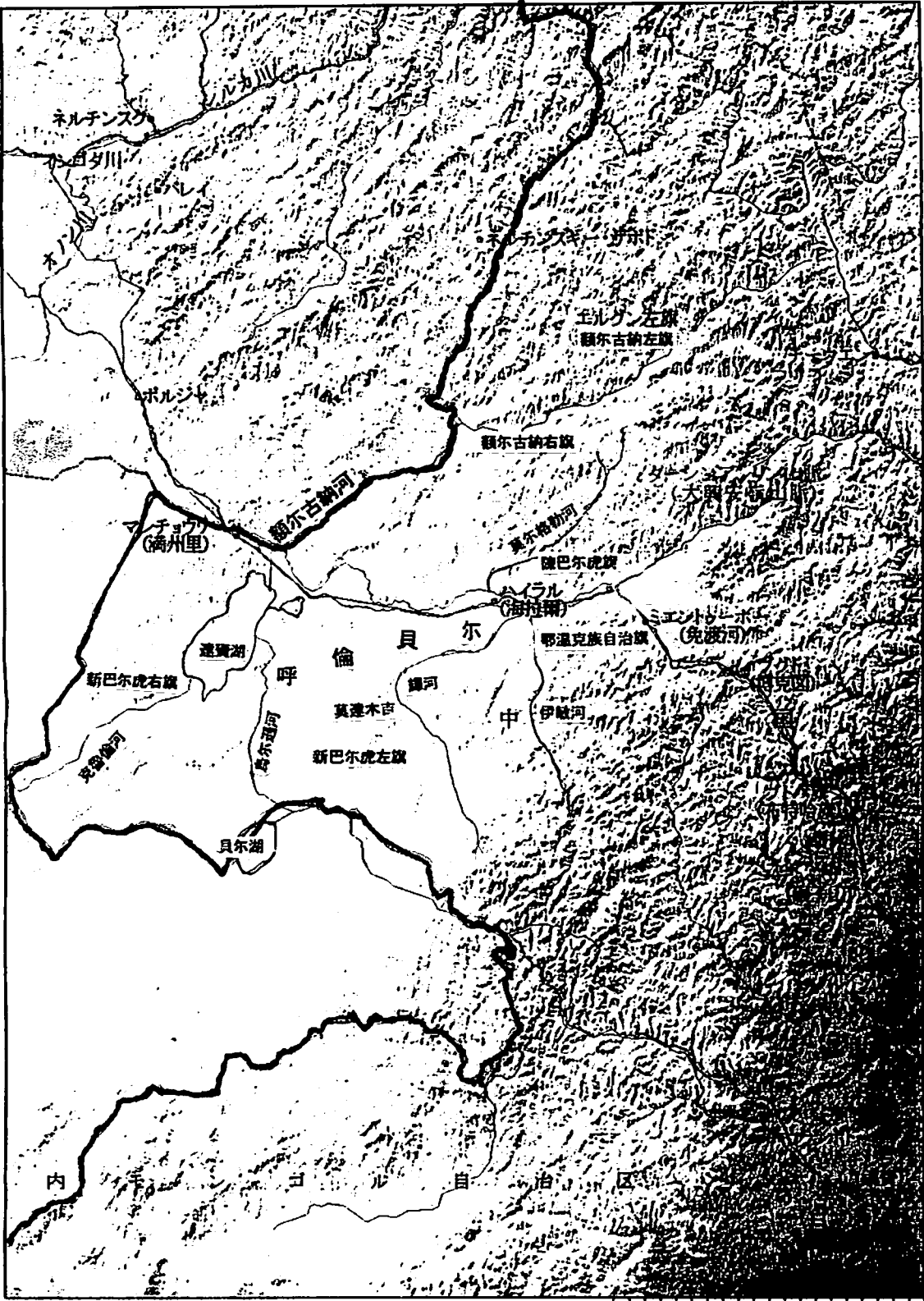
1. 密猟と巣荒らし；密猟はノガン減少の直接の原因で、当地の狩猟者の暇なとき、あるいは、指導的役人の休暇時期などに銃を持ち歩き、見たものを何でも撃ち獲っている。毎年繁殖期に、当地住民の家付近の巣荒らしは、ノガンの卵に極度の脅威を与えている。

2. 牧畜の生産拡大；これがノガンの生息に大きな影響を与えている。呼倫貝爾草原におけるノガンの分布域は、正に呼盟四旗²の牧畜業域内にある。最近、呼盟の牧畜業は年々収益が増加し、新巴尔虎左、右両旗の家畜頭数は百万を越えている。湖沼、河川周辺の夏期の放牧地は過放牧により、家畜に踏みじられ、水源付近の草原の衰退は激しく、地域によっては地面が露出している。これらの地域は正にノガンの生息域と重なっており、ノガンは巣を構えるところすらない。大群の牛や羊が草を食み、水を飲むため往来し、ノガンの巣や卵が踏み潰されずに、生き残れるわけがない。さらに、長い冬季の保証のために遊牧民らは充分なだけの牧草を用意する、その刈り取られた草原はもうノガンの生息に適した環境とはいえない状態である。

ノガンは世界の絶滅危惧種に挙げられている鳥で、中国政府は国家一級重要保護動物として登録している。呼倫貝爾草原に現在ある、達賚湖保護区はすでに業務が始められており、輝河保護区と陳巴尔虎旗草原保護区は計画、建設中であり、これら3保護区がノガンの保護のためのキーポイントとなるであろう。

訳注

- *1 雨期と乾季がはっきりしている、この地域では雨期とその後しばらくの間、湖や河川ができて、乾季には消滅するものがある。
- *2 呼盟四旗；呼倫貝爾盟の四つ旗。清朝発端の地は中国の東北地方であり、彼ら満州族の最低行政単位が旗であり、満州8旗が清皇朝を建てた原動力となった、その8旗の集団の盟約が、今日まで行政単位として継続しているものである。旗は村に、盟は郡に相当する。



ENCARTA

Copyright (C) 1993-1997, Microsoft Corporation and its suppliers. All rights reserved.